

## (7) 地域総合研究センターの活動報告

地域総合研究センターの活動は、地域社会と次の4つに分類することができる。

- ① 地域活性化のために研究センターが独自に企画立案して研究を進めている活動
- ② 地域社会から大学（代表者）としての学長を含む）に対して協力依頼があったものをセンター研究員である本学教員（グループ）が引き受けて行なっている活動
- ③ 地域社会から地域総合研究センターへ協力依頼があったものに対して、センター研究員である本学教員（グループ）が引き受けて行なっている活動
- ④ 地域社会から、研究分野からみて妥当と思われる教員個人に対して協力依頼があったものを、その教員がセンターに持ち込んで行なっている活動

### 1. センター運営委員の構成

今年度のセンターは、学内運営委員として、住吉廣行（委員長）、白戸洋（主任研究員）、木村晴壽、木内義勝、矢内和博、金子能呼、外部からの研究員として運営委員会に参加する玉井袈後男、中野和朗、今井朗子、岩原正典、建石繁明、事務担当として松田千壽子、腰原季都子、合計12名である。尚、当センターの研究員は、松本大学並びに松本大学短期大学部の全教員である。

### 2. センター運営会議 3回

### 3. 活動内容

継続的に実施している活動を中心に実施

新規の事業 - 各学部・学科の専門性を活かした地域との共同事業開始-

#### (a) 地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催（継続）

- 1) 「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会 Part 6  
講演会「集落自治から見えてくるもの-農村と都市との交流-
- 2) オープン・カレッジ「女性起業家に学ぶ一街おこし・村おこし・自分おこし」パート5  
5年間のまとめとして

#### (b) 地域づくりの事業の実施と支援（継続）

- 1) 山形村の地域福祉経営に関する事業
- 2) ユニバーサルデザインの普及活動
- 3) コミュニティ・ビジネスの普及活動
- 4) 安曇野ブランド推進協議会への協力
- 5) 産・学・地域連携による地域活性化

#### (c) 大学が主催する人づくりのための学習活動の実施

- 「キャリアスクール（一念発起の会）」 7回  
「勿体無いをそのままにしない会」 8回

#### (d) 地域における学習事業への参画・支援・研究（継続）

- 1) 公民館事業との連携
- 2) 栄養士会や行政との連携による健康づくり（新規：学科を中心とした取組）

#### (e) 地域社会への囲碁の普及と世代間交流の活性化（継続）

- 1) 大学が主催する囲碁の普及に関する活動

- 2) 地域社会と協力して営む -会場の提供と運営への協力-
- ①一般対象 年2回実施
  - ②高校生対象 年2回実施
  - ③子ども向け囲碁普及活動 定期的に実施
- (f) 「地域総合研究 第8号」 6月30日発行 (定期)
- 「地域総合研究 第9号」 3月31日発行 (増刊)